

教員が有する学位及び業績に関すること

氏 名	職 名	学 歴	専門分野	学 位
小林 裕一郎	講師	大学院(博)	社会学	博士(社会学)

役割分担

大学 FD 委員など

社会における貢献

研究業績

1. 著書

著 書 名	発 行 所 名	発行年月	単著共著の別
1.全体主義と大衆—フランクフルト学派・アーレント・エリアス—	博士論文	2016年9月	単著

2. 論文

論 文 名	発表機関名(雑誌名) 巻号, ページ	発表年月	著 者
1.ハンナ・アーレントにおける暴力論について	広島国際学院大学現代社会学部『現代社会学』12: 3-17	2011年3月	単著
2.ノルベルト・エリアス暴力論の日本での受容について	広島国際学院大学現代社会学部『現代社会学』13: 63-77	2012年3月	単著
3.啓蒙と暴力—T・W・アドルノとM・ホルクハイマーの事例—	日本社会学会『社会史研究』34: 53-68	2012年6月	単著
4.死の欲動と自己保存	広島国際学院大学現代社会学部『現代社会学』14: 19-32	2013年3月	単著
5.ノルベルト・エリアスの暴力論の射程—「編み合せ」概念を手がかりに—	日本社会学会『社会史研究』36: 73-89	2014年6月	単著
6.授業内で行われる「学生ボランティア」の現状について—学生の自己の揺らぎという視点からの一考察—	広島国際学院大学情報文化学部『2017年度広島国際学院大学「ボランティアとNPOの社会学」実習報告書』46-52	2018年3月	単著
7.初年次学生が行う授業内「学生ボランティア」の意義について—2017年度広島国際学院大学「ボランティアとNPOの社会学」を参考にして—	広島国際学院大学情報文化学部『2017年度広島国際学院大学「ボランティアとNPOの社会学」実習報告書』53-69	2018年3月	単著
8.観光資源としての御城印とは何か—御城印が生み出す社会的機能—	福祉倫理学会(研究会)『福祉倫理学会研究』1(1): 29-45	2020年3月	単著

3. 学会発表

論 文 名	発表学会等の名称	開催年月 (開催場所)	発表者等
ノルベルト・エリアスの自己抑制論について	日本社会学会2013年度 第2回関西研究例会	2014年3月 (追手門学院 大学)	単独

4. その他

著 書 名	出版社、著者名	発行年月	著者
〈会員交流コーナー〉 研究紹介	社会文化学会『社会文化通信』55: 10-11	2016年5月	単著
〈報告書〉 編集	広島国際学院大学情報文化学部『2017年度広島国際学院大学「ボランティアとNPOの社会学」実習報告書』(池本良教監修)全70頁	2018年3月	共著
〈小冊子〉 編集	小冊子『小さな社会学』(授業で学生と作成)全24頁	2019年2月	共著
〈教育報告〉 自動車と社会の社会学— 教養教育としての社会学に何ができる のか—	小冊子『小さな社会学』15-23	2019年2月	単著